

会員意向調査 報告書

調査研究部会 活動報告

1. 調査の方法.....	1
2. 属性別.....	1
3. 調査結果.....	2
4. 考察(まとめ).....	13
※参考 調査票.....	15

平成 27 年度 会員意向調査結果

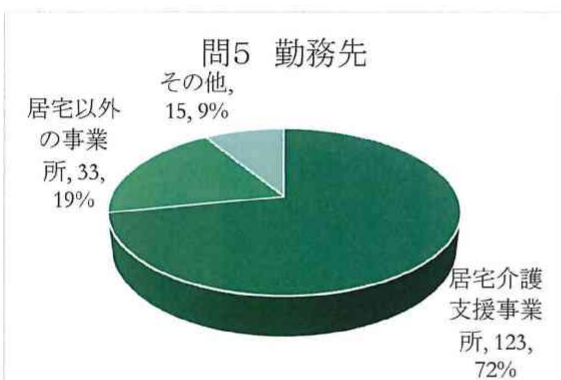
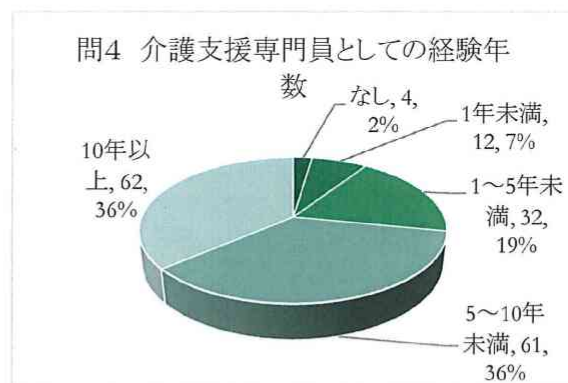
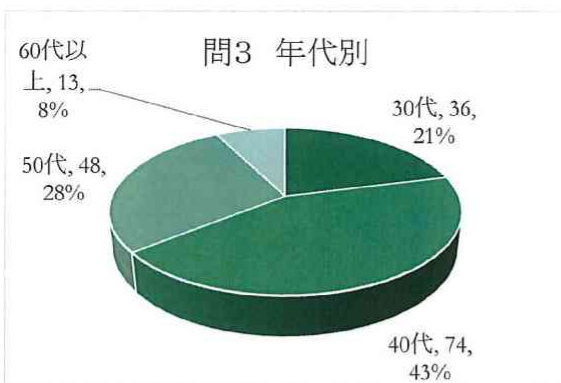
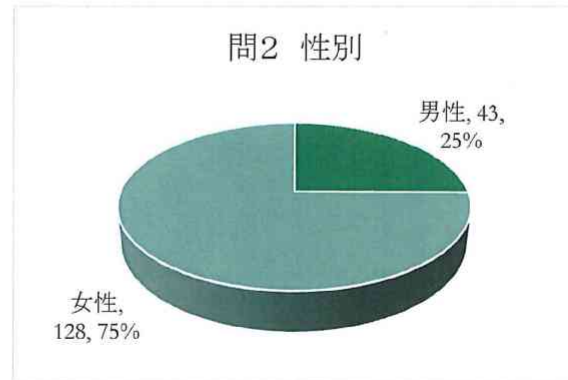
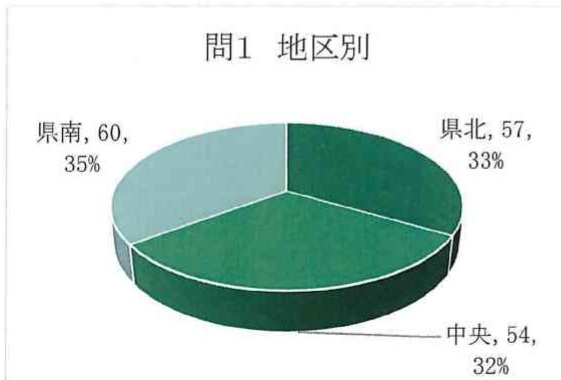
1. 調査の方法

実施期間 平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 1 月 18 日

方 法 郵送による配票調査(自記式)、ファックスまたはメールにて回収。

総 数 171 名(会員総数 781 名、回答率 21.8%)

2. 属性別



回答者属性では、三地区ほぼ同じ割合となった。最も多い属性では、性別で女性が75%、年代別では40代が43%、経験年数では同じ割合であるが、10年以上が1名多く36%、勤務先は居宅介護支援事業所が72%となった。

介護支援線専門員としての経験年数が5年以上というくくりで見ると全体の72%を占め、経験年数の長い会員が回答したことがわかる。

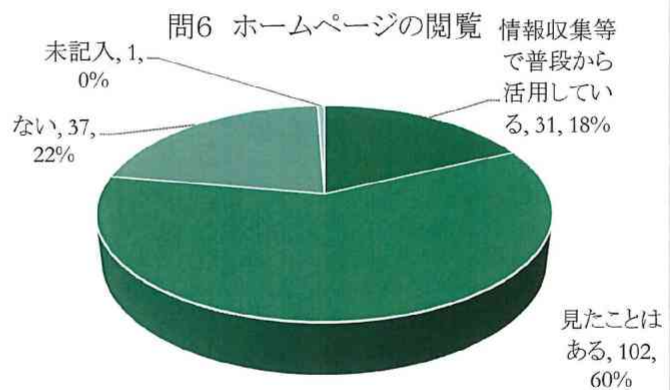
3. 調査結果

問6 秋田県介護支援専門員協会のホームページを見たことはありますか？(○はひとつ)

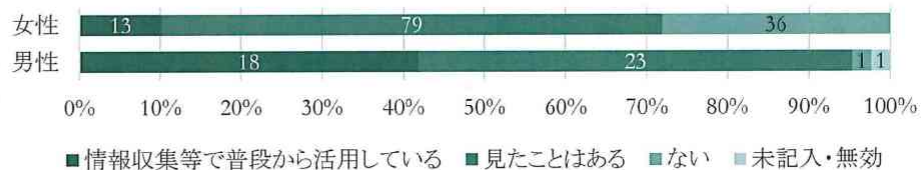
「見たことはある」というのが最も多く(60%)、「ない」22%、「普段から活用している」18%、と続く。

男性のホームページ閲覧率が高く、女性は低いのが特徴的。

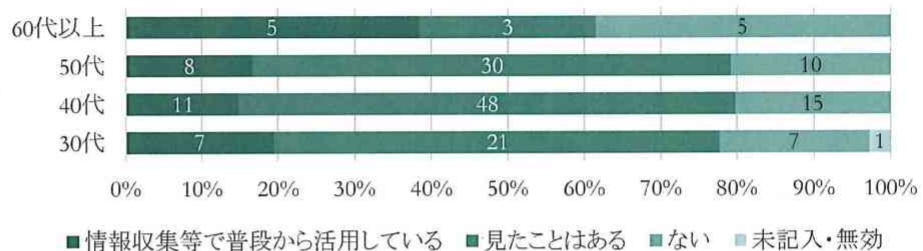
その他の属性別では目立った差は見られない。



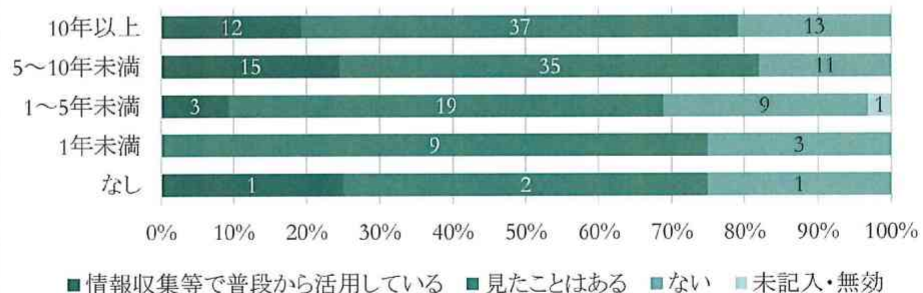
問6 性別



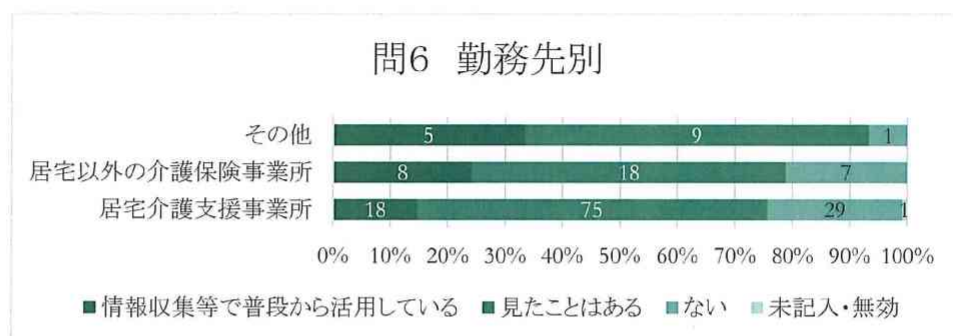
問6 年代別



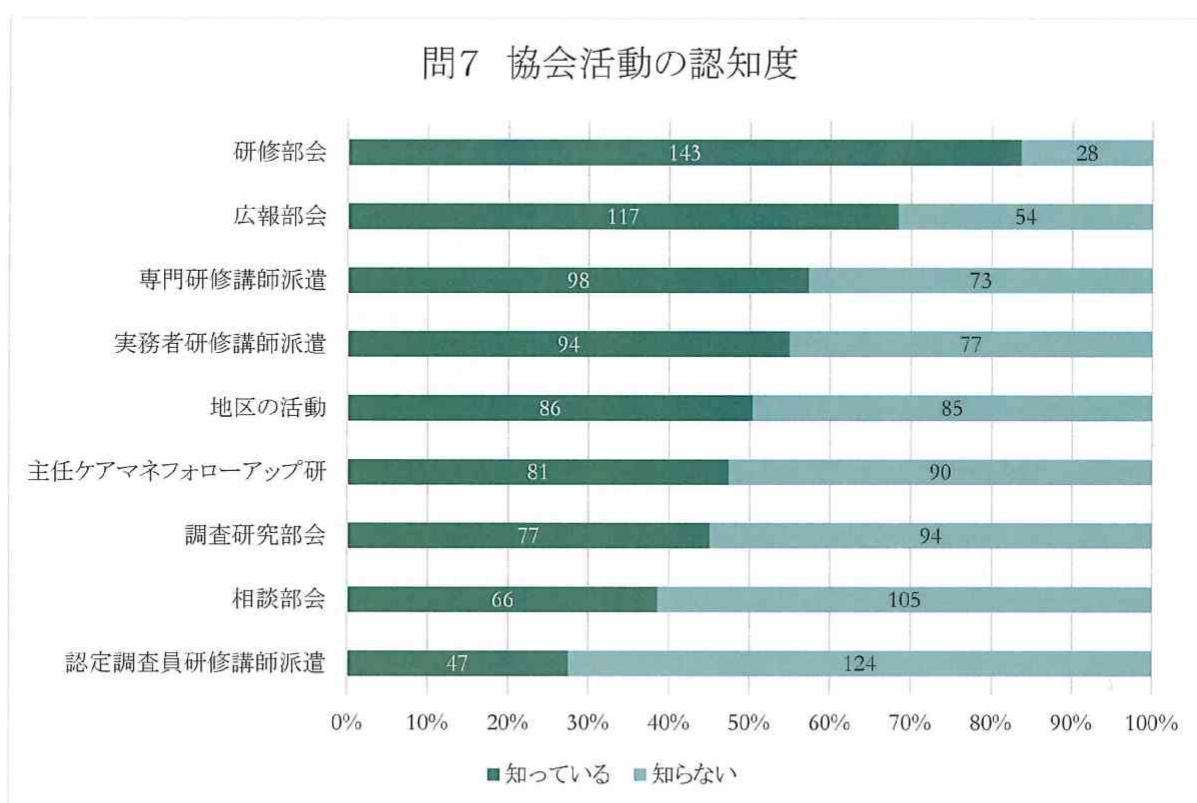
問6 経験年数別



平成 27 年度 会員意向調査結果



問7 秋田県介護支援専門員協会の活動内容について、知っている活動すべてを記入してください。
(〇はいくつでも)

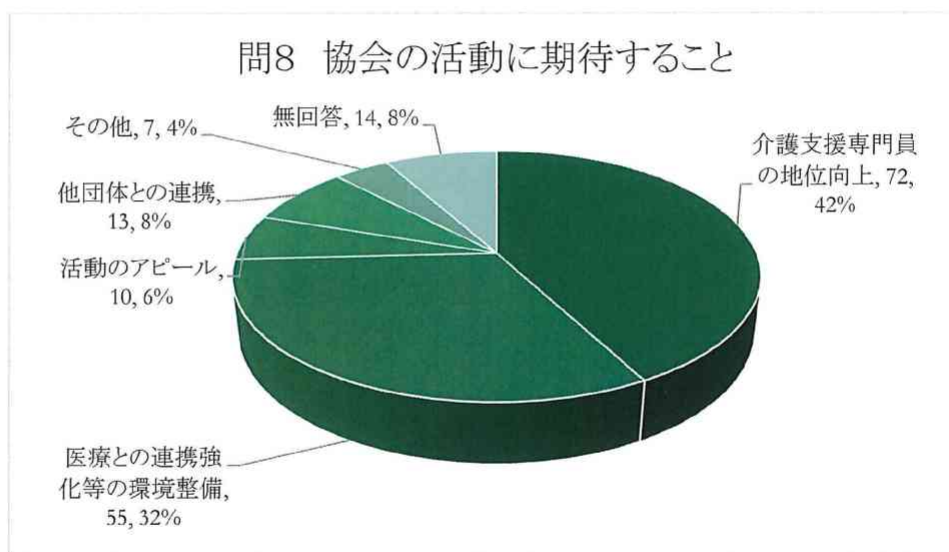


「研修部会」の認知度が最も高く 8 割を超える。次いで、「広報部会」「専門研修講師派遣」と続く。県協会の部会活動としては、「調査研究部会」「相談部会」ともに認知度が半数を切る。

「調査研究部会」は調査および技術的研究を目的とする部会、「相談部会」は会員からの相談に応じ対応する部会であるが、これらの活動の充実が望まれる結果となった。

平成 27 年度 会員意向調査結果

問8 秋田県介護支援専門員協会の活動について最も期待することを選んでください。(〇はひとつ)



※「その他」記載内容

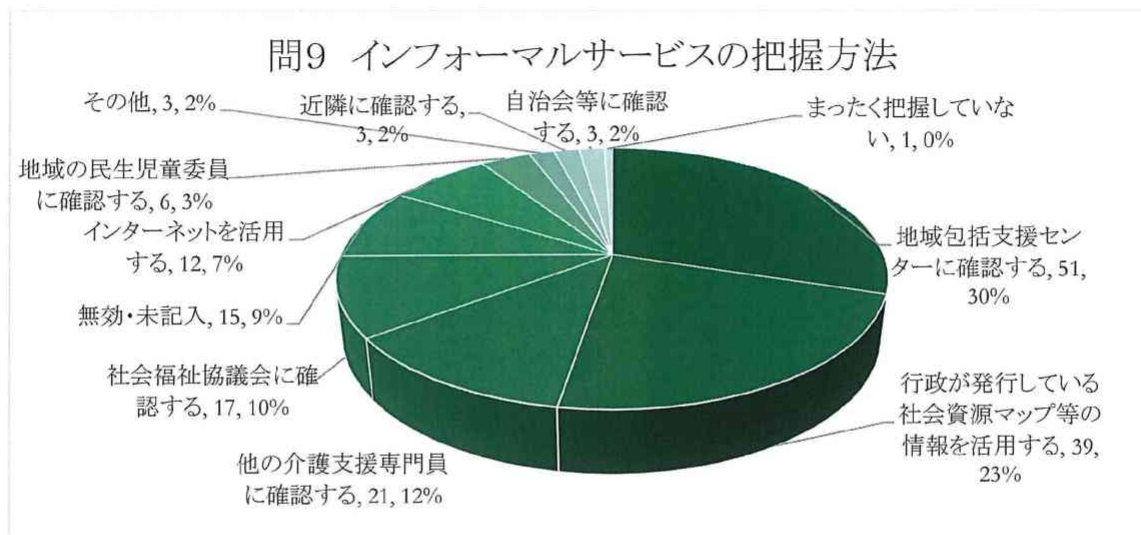
- ケアマネの知識向上
- 介護支援専門員の資質向上
- 介護支援専門員の質の向上
- 介護支援専門員の知識・質の向上
- 会員のケアマネジメントの質の向上。
- 有効な研修の開催

協会の活動に期待することとして最も多く選択されたのは「介護支援専門員の地位向上」(42%)、次いで「医療との連携強化等の環境整備」(32%)と続く。国家資格化などの期待が伺える。選択肢にはないが、資質向上に関する記載がみられ、ケアマネジメントの質の向上に向けた活動を協会に期待する意見も目立つ。

地位や待遇の維持改善に対する期待は大きい。しかしながら、日々の現場では収益の確保などとの間で葛藤している場面も見られており、協会としてどう活動していくかは課題のひとつと言える。

問9 介護支援専門員は計画の中で地域にあるインフォーマルサービスの利用が求められています。地域にあるインフォーマルサービスの主な把握方法について最もあてはまるものを選んでください。(〇はひとつ)

平成 27 年度 会員意向調査結果



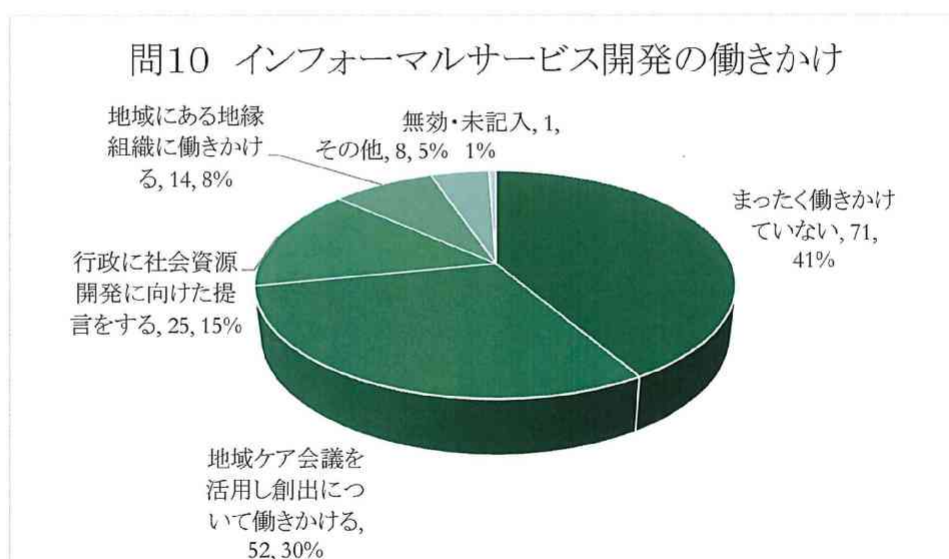
※「その他」記載内容

- ひとつ選ぶのは難しいです。ケースにより近隣だったり、民生委員だったり、行政だったり、その都度違います。
- 介護保険事業所・医療機関に確認する。
- 地域ケア会議

選択肢を一つとしたが、複数選択にすると結果も異なった可能性あり、質問の設定そのものに課題が残ることとなった。

ただ、多い順に「地域包括支援センターに確認」「行政発行の資源マップ等の活用」「他の介護支援専門員に確認」と続き、比較的容易に情報を収集できるところが多く選択された様子。対象者が暮らす地域への確認(自治会、近隣、民生児童委員)の選択割合が少ない。

問10 地域には必要なインフォーマルサービスがすべてそろっているわけではありません。地域に無いインフォーマルサービスについて主にどのようにされていますか。最もあてはまるものを選んでください。(〇はひとつ)



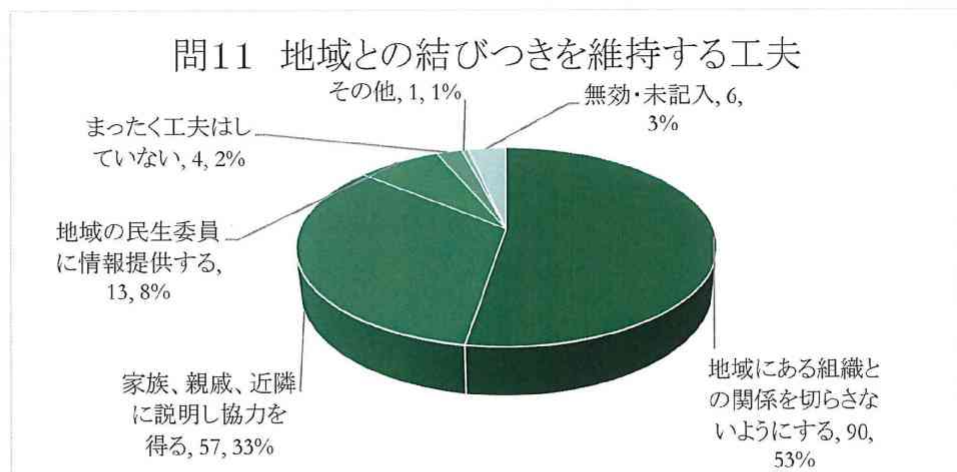
平成 27 年度 会員意向調査結果

※「その他」記載内容

- よく似たサービスを探す。
- 近隣、親族への働きかけ
- 具体的な例がないのでよくわからない。時と場合と状況により一番にどこへお願い相談したら良いのか判断が必要と思われる。
- 市の CM 連絡会等に働きかける。
- 市の介護支援専門員連絡会など、情報共有を図る。
- 自法人での開発
- 代用できるサービスを探す または、管理者から地域ケア会議等で提言してもらう
- 働き掛けても動きが見えず、あきらめてしまった。
- 欲しいサービスに近いものを探す。

「まったく働きかけていない」が最も多く 41%を占める。次いで「地域ケア会議の活用」(30%)と続く。働きかけていない回答者の割合が多いのは気になるところ。地域ケア会議への協力については平成 27 年改正で居宅介護支援事業所の運営基準に追加されたところでもあり、積極的参画が望まれる。また、軽度者の生活支援などの課題については、サービス創出が期待される所であり、ケアマネジャーが対象者の声を代弁することも期待されているところである。

問11 介護保険は家族の介護負担を減らした反面、今まであった地域社会とのつながりを薄くしたとも言われています。地域との結びつきを維持していくために、主にどのような工夫をしていますか。最もあてはまるものを選んでください。(〇はひとつ)



※「その他」記載内容

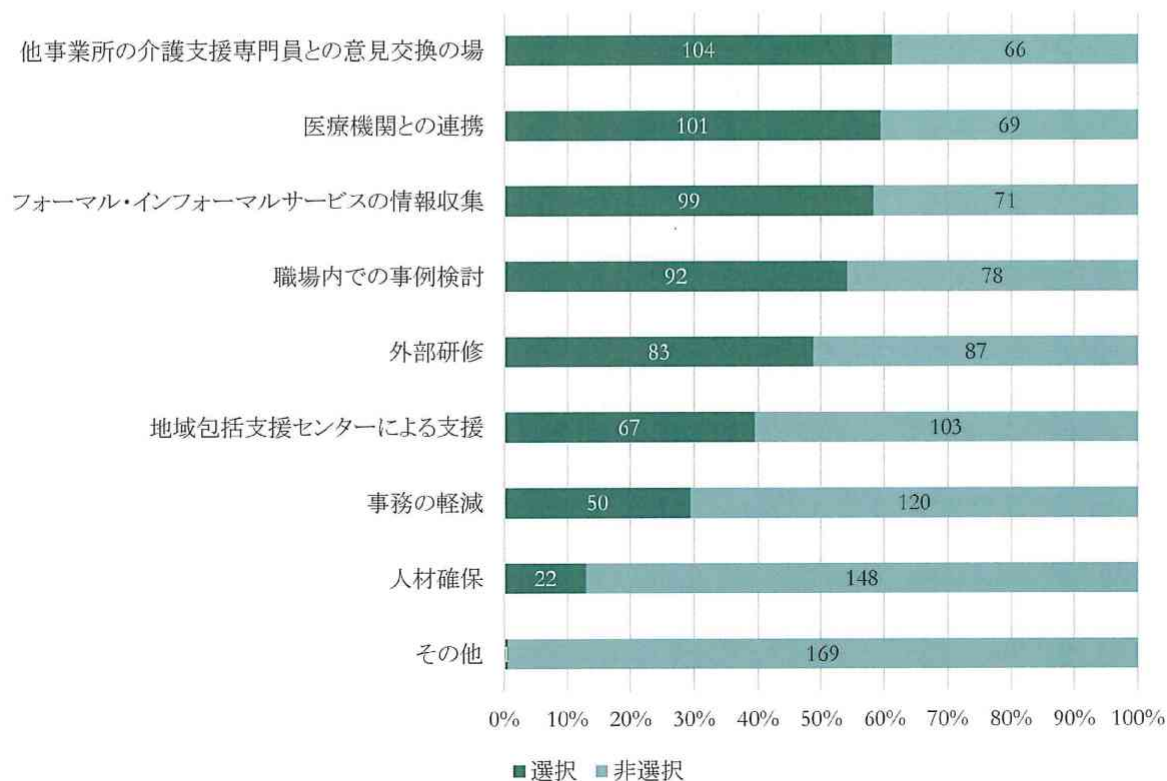
- イベントの開催・運営

「地域にある組織との関係を切らさないようにする」が最も多く選択され、全体の半数強(53%)を占める。自治会や近所づきあい、婦人会や老人クラブ等の対象者が所属する組織との結びつきを維持していくことの重要性を認識し取り組んでいることがわかる結果となった。民生委員との連携については 8%であるが、対象世帯が独居世帯など、対象そのものが限定されることから比較的少ない結果となったのだろうか。働きかける意識が不足しているという結果なのだろうか。

平成 27 年度 会員意向調査結果

問12 ケアマネジメントの質の向上のため必要と思われる項目を選んでください。(〇はいくつでも)

問12 ケアマネジメントの質の向上の為必要な項目



※「その他」記載内容

- 多職種連携

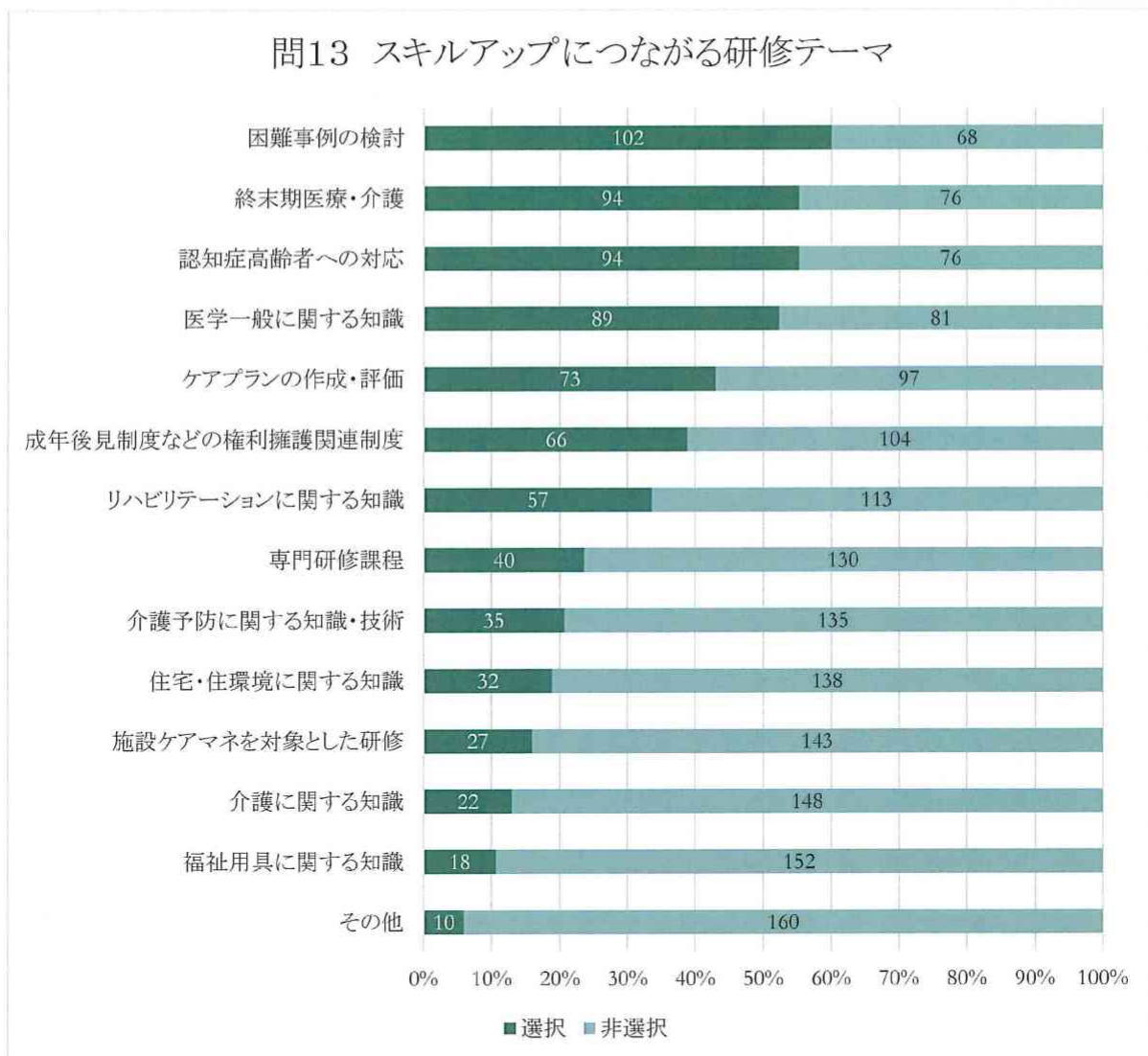
最も多く選択されたのは「他事業所の介護支援専門員との意見交換の場」であり、選択した人が 6 割を超える。次いで、「医療機関との連携」「フォーマル・インフォーマルサービスの情報収集」と続く。

「地域包括支援センターによる支援」を選択した人が半数を切る(4割弱)という点は気になるところ。

協会の活動に参加するメリットのひとつに、他事業所の介護支援専門員との情報交換が可能となることがあげられるが、協会としてそのような仕組みを積極的に活動の中に取り入れて行くことが効果的であることが伺える。

医療介護連携に関する取り組みは地域レベルでの活動が活発化してきており、在宅医療や看取り介護の取組を普及させていく上で、回答者の関心も高いことが伺える。

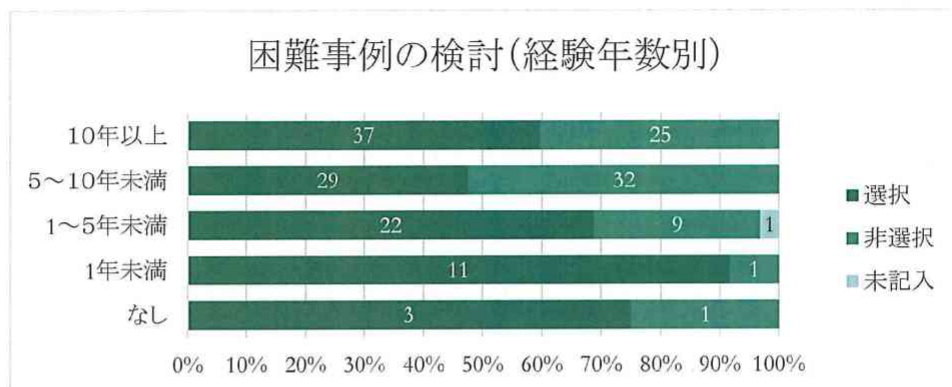
問13 どのような研修があなたのスキルアップにつながるとお思いますか。(〇はいくつでも)



※「その他」記載内容

- コミュニティワーク。
- ソーシャルワーク技術、人材育成についての研修等
- まちづくりに関する研修
- 気づきを促すスーパービジョン、口腔ケア
- 心理学の勉強
- 多職種との意見交換
- 地域包括について
- 低所得者への介護サービス導入等
- 民法系の知識
- 人間性を豊かにするもの

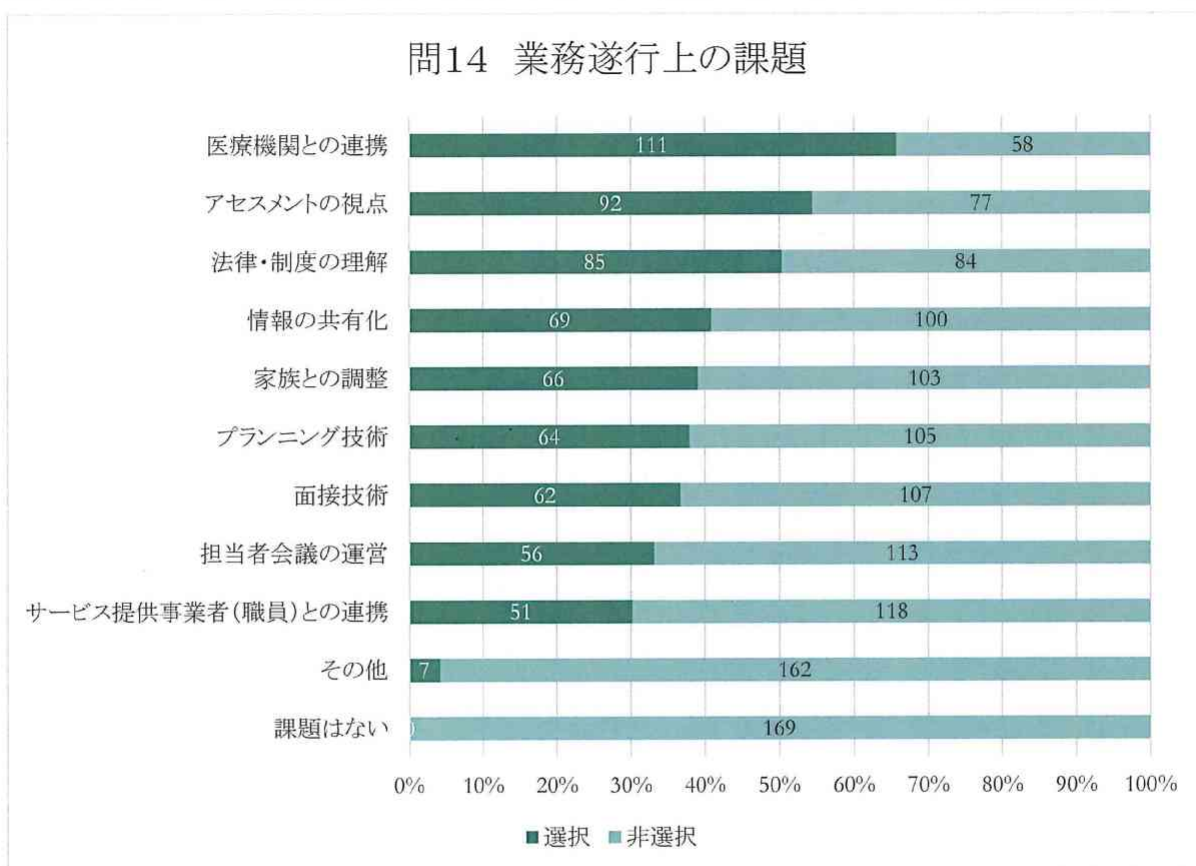
平成 27 年度 会員意向調査結果



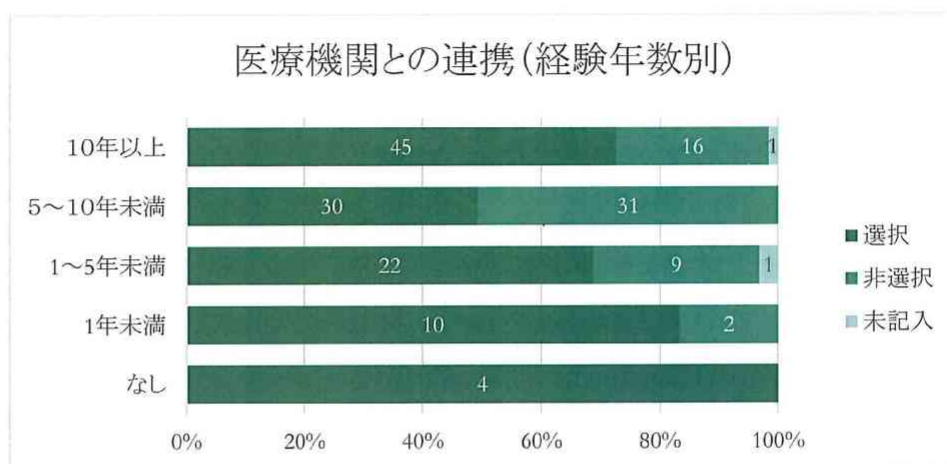
「困難事例の検討」(約6割)を選択した人が最も多い。スキルアップを図るために事例を掘り下げて検討していくことが重要と認識していることが分かる。制度創設から15年が経過し、ケアマネジャーのキャリアも幅広くなっていることから、キャリアによって、事例を通じて学びたい項目も異なっていることもあり、「ケアプランの作成・評価」を始めとする他の項目も含め、キャリアや資格(主任ケアマネジャー)に応じた研修の企画も検討する必要があると思われる。なお、「専門研修課程」を選択した人が2割強に止まっており、従来の専門研修課程のプログラムはスキルアップに結びつくうえでの課題があることが伺える。

その他の特記事項には「まちづくり」「コミュニティワーク」など、ソーシャルワークが必要であるとの記載もみられ、個別支援から地域支援の視点の重要性を指摘する声もある。

問14 業務遂行上の課題について。(〇はいくつでも)



平成 27 年度 会員意向調査結果



※「その他」記載内容

- 医療機関側の知識不足
- 家族、地域へ、介護保険制度の啓発。
- 効率的に事務仕事を進めるには
- 参加しやすいような体制を作ってもらいたい。(時間も遅いと参加できない研修もあるので)。タイムリーな情報を主とした内容もほしい。
- 主任ケアマネが若年を指導する小グループの塾のようなものをつくられないものかな？こちらは地区でやった方がいいような気がする。
- 制度が頻繁に変わりすぎる。
- 地域との連携。
- 地域包括ケアシステム構築を含め意義ある研修が行われ非会員の参加も多く会の活動が活性化していると思います。
- 内部の管理者とのやり取り
- 利用できるサービスが少なく、対応できない場合がある。

業務遂行上の課題として最も選択した割合が高かったのが「医療機関との連携」である。キャリアを問わず課題として認識されていることが伺える。回答者の半数以上が選択したのは「アセスメントの視点」「法律・制度の理解」であり、これら3つの項目は半数以上が業務遂行上の課題と認識していることがわかる。

その他の記載には「主任ケアマネが若年を指導する小グループの塾のようなものをつくられないものかな？こちらは地区でやった方がいいような気がする。」とのコメントもみられる。

問15-1 地区協会に対する意見

- ☒ いつもお疲れさまです。中央地区の協会登録者少ないなと思います。周りでも入っていない人が多いです。かくゆう私はなかなか研修や総会に出られずにいます。登録者、出席率を上げるため、他の県はどうなのでしょう。
- ☒ いつも実になる研修運営ありがとうございます。今後とも宜しくお願いします。
- ☒ いつも有益な研修の企画をして下さり、有り難うございます。参加させて頂くことで、現場にも役立させて貰ってます。

平成 27 年度 会員意向調査結果

- ☒ いわゆる中堅のための研修がほしい(更新研修以外なくなってしまうので)。その際は、地区を超えていろんな情報や多様な価値観に触れる機会となることを望む。と書きましたが、学びは自分でするものだという自覚もある。もっと広く勉強していきたいだけなのだが。
- ☒ ケアマネジャー試験そのものが難関になってきています。問題が難しいのか、受験する人の問題なのかはわかりませんが、このままケアマネジャーの高齢化が進むのはよろしくありません。地区協会単位で、受験を支援する体制(勉強会など)を考えてみませんか。
- ☒ 医療機関との連携がまだまだ難しい状況です。今後の介護保険の動向と一緒に研修できる機会があれば幸いです。
- ☒ 介護保険制度改正時の情報、対応等をアドバイスしてもらえるとありがたい。
- ☒ 会員増に向けた活動を事業計画に具体化して欲しい。
- ☒ 各会員の質向上に向けた取り組み、魅力ある活動を期待したい
- ☒ 各部会の役員の皆様は普段の業務を抱えながら本当に良く頑張っておられると思います。
- ☒ 活動資金も少ない中で、工夫をしながらの活動に感謝いたします。今後ともよろしく願います。
- ☒ 研修よりもレクリエーションを。
- ☒ 研修等あれば参加し勉強していきたいと思います。
- ☒ 今後も地域性を考慮した研修を期待しています。
- ☒ 参考になる研修を開催していただき有り難うございます。
- ☒ 市町村の枠をこえた情報交換、CM 連絡会のつながりができたらよいなと思います。
- ☒ 初任研修として「県北地区」で取り組んでいるものがとても良いと思った。「中央、県南地区」でも取り組み、初任者のサポート体制を更に強固にして欲しい。
- ☒ 多方面での研修プログラムがあり、とても参考になります。横のつながりを保つ、大切な資源になっており、活用させていただいております。
- ☒ 地域の NPO 法人の活動等について、時々、情報提供して欲しい。
- ☒ 地域の課題について、地区の専門職として共有する機会の確保や改善を図る場を設けて欲しい。
- ☒ 地域支援事業においては早期の方向性を希望したいと思いますので、研修も頻回に開催していただけたら有難く存じます。
- ☒ 地区会員の連携をこれからも願います。
- ☒ 入会し易い環境整備、会員数増加に向けた取り組み
- ☒ 能代地区は退会者が多く会員が少ない。能代市主体のケアマネ研修には多数参加している。会費がネックで入会しないのかそれ以外で入会しないのか確認してみてもどうか？
- ☒ 病院受診に於ける院内の介護補助は病院と思うのですが、明確にして周知願います。
- ☒ 有効な研修の開催。
- ☒ 様々な研修へ参加させていただきその度に新鮮な気持ちになります。日々の仕事を見直す上では最高の場です。

問15-2 県協会に対する意見

- ☒ 「ケアマネジメント」のみではなく、「ソーシャルワーカー」としての研修をしてもらいたい。視野が広が

平成 27 年度 会員意向調査結果

- り、ケアマネの質の向上に繋がるのではないかと思います。社会福祉士会との連携。
- ☑ ネットなどの講義研修など、移動負担を考慮した研修会が実現できるようにお願いします。
 - ☑ 介護保険制度上での介護支援専門員の地位向上に努めてほしい。
 - ☑ 会員同士のつながりが深くなってきている。
 - ☑ 各地区の独自性を活かせる様、今後も支援をお願いしたい。
 - ☑ 研修の場で別の地区の方とお話出来ることは貴重な機会です。情報交換の場があれば日常の業務も役立てると思っています。
 - ☑ 県協会から地区協会へ年間一律 150,000 円の補助が出ています。地区協会には約 300 名の会員が登録していますので、一人あたり 500 円の補助です。県協会支出の見直しも兼ね、今後は一律の補助ではなく、一人 500 円の補助が良いと思います。
 - ☑ 講義形式の研修だけではなくグループワーク、実践を交えた研修
 - ☑ 三地区との連携を密接にしながら、バックアップも同様をお願いします。
 - ☑ 秋田で最後まで家で暮らしていくために、一人でも夫婦でも高齢になれば家事が大変です。子供に頼らなくても大丈夫、というサポート、周知が出来たらいいと思います。人は減っていくのですから。
 - ☑ 秋田県のケアマネージャーに先立ち意見を取りまとめ、多方面へ発信と反映をして頂いておりありがたいと思います。
 - ☑ 他職域団体との連携や人材育成の支援。
 - ☑ 地区協会と同じ
 - ☑ 日本協会への橋渡し役としてこれからも宜しくをお願いします。
 - ☑ 病院受診に於ける院内の介護補助は病院と思うのですが、明確にして周知願います。
 - ☑ 部会の充実。

問15-3 日本協会に対する意見

- ☑ ケアマネ研修、講師養成のためのカリキュラム整備
- ☑ 介護支援専門員にも処遇改善加算を！
- ☑ 介護支援専門員の人材育成システム(生涯研修)の充実を図り、国家資格化に向けて欲しい(ケアマネの地位向上を望む)。
- ☑ 介護支援専門員の地位向上のために引き続き頑張っていただきたい。
- ☑ 会費が高すぎる。たまには国会議員を講師によこして貰いたい。
- ☑ 個人的に全国区の動きまで目をむけられていません。
- ☑ 好きな仕事ですが、国の発言や姿勢を見ると、期待されていないことがハッキリしているので、そういうもんだと割り切っています。介護の仕事は、離職が深刻で、本当に危機的だと思います。
- ☑ 国の委員会等で全国会員の状況を伝える発言を多くしてください。
- ☑ 支部を持たない県があったり、3 層構造になっていない県があったり、そもそも会員数が増えないのは何故なのでしょう。会員になるメリット感が感じられないからなのでしょう。非会員にはない、会員だけのメリットを今からつくり出すことも、一つの策ではないかと思います。
- ☑ 主任ケアマネ研修は本当に楽しく、とても充実していた時間だった。スーパービジョンもワクワクした！！が、殆どは加算の為に職場から言われて取得している状況だと思う。本来は経験の浅いケア

平成 27 年度 会員意向調査結果

マネや部下・後輩を指導して、ケアマネ全体の質の向上を図ることが目的だと思うので、そのような仕組みづくりを希望したい。

- ☑ 政治機関への発信や働きかけ等、精力的な活動、心強く思っております。
- ☑ 専門職としての地位向上と質を高めた対人援助を展開出来る業務の見直し。
- ☑ 短期間で出来る有効な更新研修の考案。
- ☑ 日本協会への会費の件ですが、地区協会の会費とあまりにもひらきがあり、負担感が大きいです。日本協会の目に見えた活動では会費はすごく割高に感じます。日本協会入会のメリットをあまり感じません。
- ☑ 年会費5000円の使い道をもう少し詳しく知りたい。
- ☑ 年度始めにある程度の研修の年間予定が分かると予定を立てやすいです(出席できるように)。調整する側は大変な事でいつもご苦労されていると思います。ありがとうございます。
- ☑ 病院受診に於ける院内の介護補助は病院と思うのですが、明確にして周知願います。
- ☑ 報酬の安定化をお願いしたい

4. 考察(まとめ)

ホームページの利活用については、男性の利用割合が高いが女性が比較的 low、会員の多くを占める女性会員に向けて、どのように情報提供を図っていくか工夫が求められると考察される。

また、県協会の活動の認知度を高めるために、「調査研究部会」「相談部会」これら二つの活動について、広報による周知も含め、さらに取り組みを強化していくことが望まれる。

協会の活動には、「介護支援専門員の地位向上」が最も期待されており、今回の調査における調査研究部会内の検討過程においても、「特定の事業所へサービスを集中させずに事業所の収益をみながら利用者や家族の最善の利益を図る努力をしているのに給与は低い」といった声もあがり、ケアマネジャーとしての質の向上とともに待遇や地位向上に向けての課題の根深さをうかがわせている。地位向上を図るためには、日本協会の働きかけ、そして地域で実践する会員の実践力の向上、このふたつが車の両輪のように前進していくことが望まれる。日本協会の活動と地区協会の活動が活性化することが期待される。しかし、協会の組織率は年々低くなっており、今回の調査回答率も2割強に止まったことから、ケアマネジャーを取り巻く環境は決して楽観的ではないことを認識すべきである。

今回の調査では、地域に対する関心や働きかけに関する取り組み実態も併せて調査した。その結果としては、関心はあるものの働きかけの具体的なイメージはついていない人が多い、という分析結果となっている。今後、地域ケア会議などへの参画からどのように住み慣れた地域で生活を継続していけるためのケアマネジメント実践が行えるか、協会としてソーシャルワークに関する研修等に取り組むことが期待される。

ケアマネジメントの質の向上、そして業務遂行上の課題として、医療との連携の割合は比較的高い。ただ、他のケアマネジャーとの情報交換や困難事例の検討などの声が多く、そのような場づくりを地区単位で活動していくことが望まれる。地区協会の活動に期待したい。

地区協会、県協会、日本協会に対する意見を自由記載してもらったが、会の活動に対する理解と感謝の声も見られ、協会で活動している仲間はこれらの感謝の声を確認し合いながら今後の活動によりいっそう励んでほしい。しかしながら、改善が必要な課題も自由記載欄には多く記載されており、改善に向けた取り組みが望まれる。県内は「ケアマネジャーの高齢化」という問題も出てきている。年々ケアマネジャー

平成 27 年度 会員意向調査結果

になる門は狭くなってきている中で、入会促進をどのように図るかは課題である。

職能団体に入会する意義は ①資質の向上 ②地位・待遇の維持向上 ③交流と親睦を通じた仲間づくり の三点であると言われる。地域単位で会員相互が顔見知りになりながら支えあって高めあえる、そうした仲間づくりの場が設定できるよう活動していくことが望まれる。

今回の調査目的は、協会の活動への指針を得るために会員ニーズを調査によって明らかにすることであったが、その目的は概ね達成された。ただ、一部、複数回答とすべき設問を単一回答としたため、設問設定自体に無理があったため改善したい。

最後に、調査に協力してくれた会員に対して深く感謝の意を表したい。

平成28年3月

※調査研究部会

部会長	伊藤 政利	(県北地区 指定居宅介護支援事業所おおたき)
副部会長	後藤 公之	(県南地区 湯沢市地域包括支援センター)
部員	菊地 雅也	(県北地区 ケアプランセンターみんなの家)
部員	田村 裕子	(県北地区 ひまわりハートケア居宅介護支援事業所)
部員	工藤佐知子	(中央地区 福寿荘ケアプランセンター)
部員	嵯峨 善行	(中央地区 秋田聖徳会養護老人ホーム)
部員	武田 貴康	(中央地区 特別養護老人ホーム陽光苑)
部員	水谷 英明	(県南地区 グループホームおおた)
部員	畠山 諒太	(県南地区 有料老人ホームかまくら)
事務局	横山 泰	(秋田県社会福祉協議会)
会長	福本 雅治	(特別養護老人ホーム東恵園)

平成 27 年度 会員意向調査結果

※参考 調査票

FAX 秋田県介護支援専門員協会 調査研究部会委員あて（※通知内ファックス番号参照）

平成 27 年度 秋田県介護支援専門員協会 会員意向調査

※あなたのことについて、おたずねします。あてはまる番号を○で囲んでください。

問 1 あなたの所属地区協会について

1. 県北 2. 中央 3. 県南

問 2 あなたの性別について

1. 男性 2. 女性

問 3 あなたの年齢について

1. 20 歳代 2. 30 歳代 3. 40 歳代 4. 50 歳代 5. 60 歳以上

問 4 介護支援専門員としての経験年数

1. なし 2. 1 年未満 3. 1～5 年未満 4. 5～10 年未満 5. 10 年以上

問 5 勤務先

1. 居宅介護支援事業所 2. 居宅介護支援事業所以外の介護保険事業所
3. その他（ ）

※秋田県介護支援専門員協会のことについて、おたずねします。あてはまる番号を○で囲んでください。

問 6 秋田県介護支援専門員協会のホームページを見たことはありますか。（○はひとつ）

1. 情報収集等で普段から活用している 2. 見たことはある 3. ない

問 7 秋田県介護支援専門員協会の活動内容について、知っている活動すべてを記入ください。（○はいくつでも）

1. 広報部会 2. 研修部会 3. 調査研究部会 4. 相談部会 5. 地区の活動
6. 認定調査員研修 講師派遣 7. 主任介護支援専門員フォローアップ研修 講師派遣
8. 介護支援専門員専門研修 講師派遣 9. 介護支援専門員実務者研修 講師派遣

問 8 秋田県介護支援専門員協会の活動について最も期待することを選んでください。（○はひとつ）

1. 介護支援専門員の地位向上 2. 医療との連携強化等の環境整備 3. 活動のアピール
4. 他団体との連携 5. その他（ ）

※ケアマネジメントの実態についておたずねします。あてはまる番号を○で囲んでください。

問 9 介護支援専門員は計画の中で地域にあるインフォーマルサービスの利用が求められています。地域にあるインフォーマルサービスの主な把握方法について最もあてはまるものを選んでください。（○はひとつ）

1. 地域包括支援センターに確認する 2. 社会福祉協議会に確認する
3. 行政が発行している社会資源マップ等の情報を活用する
4. 地域の民生児童委員に確認する 5. 自治会あるいは町内会等に確認する
6. 近隣に確認する 7. 他の介護支援専門員に確認する 8. インターネット（WEB）を活用する
9. まったく把握していない
10. その他（ ）

問 10 地域には必要なインフォーマルサービスがすべてそろっているわけではありません。地域にないインフォーマルサービスについて主にどのようにされていますか。最もあてはまるものを選んでください。（○はひとつ）

1. 地域ケア会議を活用し創出について働きかける
2. 行政に社会資源開発に向けた提言をする
3. 地域にある地縁組織（自治会等）に働きかける
4. まったく働きかけていない
5. その他（ ）

平成 27 年度 会員意向調査結果

問 1 1 介護保険は家族の介護負担を減らした反面、今まであった地域社会とのつながりを薄くしたとも言われています。地域との結びつきを維持していくために、主にどのような工夫をしていますか。最もあてはまるものを選んでください
(○はひとつ)

- | |
|---|
| 1. 介護保険サービスの利用を開始しても地域にある組織との関係を切らさないようにする
2. 家族、親戚、近隣に説明し協力を得る
3. 地域の民生委員に情報提供する 4. 地域にある地縁組織へ働きかける
5. まったく工夫はしていない
6. その他 () |
|---|

問 1 2 ケアマネジメントの質の向上のため必要と思われる項目を選んでください。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. フォーマル・インフォーマルサービスの情報収集 2. 職場内での事例検討
3. 他事業所の介護支援専門員との意見交換の場 4. 地域包括支援センターによる支援
5. 医療機関との連携 6. 外部研修 7. 人材確保 8. 事務の軽減
9. その他 () |
|--|

問 1 3 どのような研修があなたのスキルアップにつながるとお思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 困難事例の検討 2. 認知症高齢者への対応 3. 医学一般に関する知識
4. ケアプランの作成・評価 5. 専門研修課程 6. 介護に関する知識
7. 成年後見制度などの権利擁護関連制度 8. 介護予防に関する知識・技術
9. リハビリテーションに関する知識 10. 住宅・住環境に関する知識
11. 福祉用具に関する知識 12. 終末期医療・介護
13. 施設ケアマネを対象とした研修
14. その他 () |
|--|

問 1 4 業務遂行上の課題について (○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 医療機関との連携 2. 情報の共有化 3. 家族との調整 4. サービス提供事業者（職員）との連携
5. 法律・制度の理解 6. 面接技術 7. アセスメントの視点 8. 担当者会議の運営
9. プランニング技術 10. 課題はない（本項目を選んだ場合○はひとつ）
15. その他 () |
|--|

問 1 5 地区・県・日本協会に対する意見を自由に記述ください。

《地区協会へ》	《県協会へ》	《日本協会へ》
《その他自由記載欄》		

ご協力ありがとうございました。